

## 「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	名古屋大学	整理番号	1909
プログラム名称	情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス 卓越大学院		
プログラム責任者	門松 健治	プログラムコーディネーター	勝野 雅央

### (評価決定後公表)

#### (総括評価)

- S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

#### [コメント]

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、東海国立大学機構が目指す「アカデミック・セントラル」構想を基盤として大学院全体の改革を進め、東海国立大学機構長、名古屋大学総長そして岐阜大学学長のリーダーシップの下に大学院改革を進めている点が評価できる。情報科学と生命医科学双方の知識を身につけた高度な「知のプロフェッショナル」の育成・輩出を目指したプログラムは、「学術的先進性の追求」と「社会課題解決の先導」の実現を狙うもので高く評価できる。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、「デジタル生命医科学」、「マルチレイヤー生命医科学」、「国際性・多様性」の3つの力を実装することで、高度な「知のプロフェッショナル」を育成・輩出する教育プログラムが機能している点が評価できる。情報科学と生命医科学のコンボリューション教育の拠点形成という目的が達成されつつあり、プログラム修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての飛躍的成長が大いに期待される。

高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導體制の整備については、デュアルメンター制度や CIBoG リトリート、100 人論文や学生の自主的交流会の実施など、学生のモチベーションを喚起する様々な仕組みが当初の計画を超えて整備されている点が評価できる。

優秀な学生の獲得については、プッシュ型とプル型のリクルートが功を奏し、優秀な学生の獲得に成功している点が高く評価できる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、分野の異なる 2 大学 6 研究科のトップクラスの研究者からなる 10 名の審査委員が評価するという方法で、3 段階の QE が学生の資質・能力の向上・保証に有効に機能している点が評価できる。

事業の継続・発展については、連携企業とのインターンシップ、企業研究者との検討会、共同研究講座などを初めとする優れた産学協同が進む一方、共同研究講座の設置による財政基盤の強化、教員の内生化、寄付活動の推進など、本プログラムの発展的な継続が企図されている点が評価できる。